

三八年の歴史の重みをかみしめて

副会長 斉藤寿美代

けやき平和コンサートのを支えて下さる皆様へ、今般は冒頭で悲しいお知らせです。38年前の会発足当時から共に歩み続けて来た合唱指揮者・運営委員であられた「広瀬忠雄先生」が6月8日未明に他界されました。一年半に及ぶ闘病生活の中にあっても「早く合唱に行きたい」との思いを語っていられたのですが、誠に残念でなりません。

会の歴史の中では紆余曲折、苦勞も多々ありましたが「先生、辞める時は皆一緒ですよ」と、掛け声をかけながらの継続でした。先生との印象的な思い出話の一つあげるならば、数年前、憲法改悪反対の10万人集会に初めて仲間7、8人で行った（代々木公園）、その当時90歳位だった寂聴さんがスピーカーから正義の熱弁を奮われ感動し、帰りは新宿でビールで乾杯したときの若者気どりの賑やかなひと時が懐かしく蘇って来ます。広瀬先生共々「反核平和のメッセージを音楽を通して発信し続けよう」を貫いて来ました。

今までのご功勞を偲びながら心より哀悼の意を捧げたいと思います。天上からきつと私達の継続を温かく見守って下さっていることと思います。

★さて今回は、形式にとらわれないで近況をさらっと。けやきコンサートの会にとつての宝物のような存在「ザラフィアンツ」ですが、「ザラフィアンツと行く旅」の10回目を終えてきました（多分最後）ザラフィアンツが居を構えるクロアチアへの旅。合唱の仲間を含め17人でのオリジナルツ

アー10日間。（旅行社を經營する仲間が手配）アドリア海の最南端、オレンジ色の真珠と絶賛される（輝くオレンジ色の屋根が密集）城塞の街“ドブロブニク”（魔女の宅急便の舞台）を皮切りに延々と続くアドリア海を専用バスで移動。コバルトブルーの海・オレンジ色の屋根・海に浮かぶ小さな島々（約千個もある）緑の木々の中からすつくり立ち上がるスマートな糸杉・真つ青な空に浮かぶ綿菓子のような白い雲。アドリア海を旅するには絶好のベストシーズンでした。

※一方美し過ぎるクロアチアの歴史の裏側は、ユゴスラビアが分裂するに当たって起きた凄惨な内戦の傷跡は（一番酷かったボスニアには入らなかったが、戦禍の跡が未だに手付かずと）あまりに複雑すぎる多民族国家間の対立の連鎖が戦争を起こしてしまう実態を垣間見ることが出来た。★改めて思う。おろかな戦争はどんな形にしても絶対に避けなければいけないことです。人間の叡智と矛盾した愚かさと思いを馳せる。



ドブロブニク（アドリア海）

第三八回けやき平和コンサートを迎えて

副会長 福島省吾

この度、副会長という大役を仰せつかり恐縮しております。微力ではございますが本会の活動にお手伝いをさせていただきますと思います。どうぞよろしく願っています。

さて、本会の趣旨に示されておりますように「反核・平和、環境保全、福祉」の立場から、戦争のない平和な社会を築くべく、音楽を通して多くの方々の熱意により活動をしてまいりました。今年は第38回目のチャリティーコンサートを迎え、すでに開催に向けた準備を行っております。今回も盛り沢山のプログラムを構成し、憲法を守りそれを生かしながら平和を願う多くのみなさまと共にこのコンサートを成功裡に終えますよう頑張りたいと思います。

ところで、本会創立者の一人であり、けやき混声合唱団の指揮者として長きにわたりご尽力いただきました広瀬忠雄先生が逝去されました。ここに衷心よりご冥福をお祈りいたします。先生のご活躍を偲びつつこれからも本会の発展を希求していきたいと思ひます。

近年は私たち国民にとって厳しい社会状況が見受けられます。しかし、戦争をしない日本を宣言した平和憲法を守り、それを生かし発展していく運動は、私たち国民の意思と行動に掛かっています。孫の世代までこの平和な社会を守り発展させていくためにも音楽を通して多くの人々と共に平和を希求する気持ちを広め強めていきたいと思ひます。

地讃頌」も広瀬忠雄先生を偲びながら会場の皆さんとともに歌いたいと思ひます。

「3・11 福島を忘れないチャリティーコンサート」に参加して 志録紀美子

東日本大震災以後八年を迎え三月十一日バルトホールに於いて

「福島を忘れない講演と音楽の集い」（福島を応援するオンソング・府中紫金草合唱団・けやき混声合唱団とご一緒にホールを満席にして開かれ）に参加しました。

第一部の講演は福島在住の矢部みゆき氏を招き、「安達ヶ原の鬼婆とフクシマ原発」というテーマで現在も続いている原発事故のその後の苦難の様子を話して頂きました。

第二部は、独唱テノール下村氏、ソプラノ那知上氏 合唱、けやき混声合唱団、府中紫金草合唱団による演奏。

第三部は福島応援オンソングによるみんなと一緒に歌いましょう。のステージで中味の濃い集いになりました。当日寄せられた感想をいくつか紹介いたします。

・プログラム全てよかったです。優しい語りの中に深い悲しみ、怒りが伝わりました。
・三部作で、あつというまに時間が過ぎて、すばらしかった。特に群青の歌に感動しました。



「群青」のじゆ けやき混声合唱団 小寺松雄（バス）

昨年、「次は『群青』を練習します」といわれたとき、団塊世代の私の頭に浮かんだのは谷村新司の曲でした。え、あの歌が合唱曲に？ 映画「連合艦隊」のテーマ曲。まあ戦没者の鎮魂歌ではありますが・・・。

ほどなく楽譜が配られ、違うとわかりました。東日本大震災で大きな被害と犠牲が出た福島県の中学校で、先生・生徒の共作という形で2年後に作られ歌われてきた曲です。

正直、最初は「うーむ、中学生ソングだなあ」と思っていました。が、名手・信長貴富の編曲で、歌いこんでいくと、「群青のまちで」がなんともいえぬ味を生み出します。

3度ほどステージでうたったところ、毎日新聞で『群青』を歌う」という記事が目に入りました（3月12日夕刊）。小国綾子さんという記者が「趣味で合唱をしている私自身、3度ほどステージで歌った」と書いています。記者という点でも私と同じ。恥ずかしながら初めて知りましたが、この中学校では生徒4人が犠牲になっていました。われわれが最初に見た曲解説にはそのことは書かれていませんでした。

犠牲者のことを知ったら、よけいに思い入れが深くなった・・・というのは面目ない話ですが、今回の経験を頭に刻んで歌い継いでいきたいと思っております。あ、今春から高校の音楽教科書にも採り入れられているそうですよ。

群青（歌詞）

福島県南相馬市立小高中学校 平成24年度卒業生・構成小田美樹

ああ あの町に生まれてきみと出会い

たくさんの思い抱いて一緒にときを過ぎたね

今 旅出つ日見える景色は違っても

遠い場所でも同じ空きつと見上げてるはず

「またね」手を振るけど明日も会えるのかな

遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た火花

いつでも君がいたね

あたりまえが 幸せと知った

自転車をこいで 君と行った海鮮やかな記憶が

目を閉じれば 群青に染まる

あれから2年の日が 僕らの中を過ぎて

3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声 響け 遠くまでも

あの空の彼方へも

大切な すべてに届け

涙のあとにも 見上げた夜空に

希望が光ってるよ僕らを待つ 群青の町で

きつと また会おう あの町で会おう

僕らの約束は消えはしない 群青の絆